

癩 胸や腹に激痛

「癩(しゃく)」は「積聚(しゃくじゅう)」、「さしこみ」ともいい、胸や腹に急に激痛が走る症状を指しました。「癩」を起こした人は、痛みが激しいため、体を折り曲げるようにして耐えました。ここから、現在では胃痙攣(けいれん)、胃痛、胆石症、急性膵炎(すいえん)、そして心筋梗塞(しんきんこうそく)や滲出性肋膜炎(しんしゅつせいりくまくえん)も含まれたとも考えられます。



痰・癩・溜飲と疝の薬を売る店がにぎわう様子が描かれている。これらの病気には市販の薬もよく用いられた。

【江戸時代】